

設定来の運用状況と今後の見通し

次世代AI株式戦略ファンド

追加型投信/内外/株式



- 平素は『次世代AI株式戦略ファンド』(以下、当ファンド)に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
- 本レポートでは、当ファンドの運用状況についてご紹介します。

足元の投資環境

5月の世界株式市場はAI需要の拡大期待などを背景に上昇しました。MSCIオール・カントリー・ワールド・インデックス(世界株式指数)は、米ドルベースで約5.2%上昇しました。6月に入ってから、米連邦準備制度理事会(FRB)による利上げへの警戒感が続く中、5月までの株価上昇の反動から上旬に株価は反落しました。その後、中旬以降は景気の底堅さや堅調な企業業績への期待から反発する展開となっています。

AI関連分野では、2022年末のChatGPT登場による第1波に続き、2026年は「エージェントAI」の進化が第2の転換点になりつつあります。エージェントAIはこれまで遅れていた企業向けAI需要を大きく押し上げており、生成AI以上に計算資源を必要とすることから、AIインフラ需要を加速させています。この結果、次世代AIインフラ関連株が市場を牽引しました。エージェントAIの普及により中央演算処理装置(CPU)需要が想定以上に拡大していることから、特にメモリやCPU関連企業の株価が堅調でした。

図表1 世界株式指数とS&P500種指数の推移

(期間:2025/6/9~2026/6/24、日次)



※世界株式指数:MSCI ACWI Index
※2025年6月9日(当ファンド設定日)を100として指数化(米ドルベース、配当込み)

(出所)Bloombergのデータを基にSBI岡三アセットマネジメント作成

当ファンドの運用状況

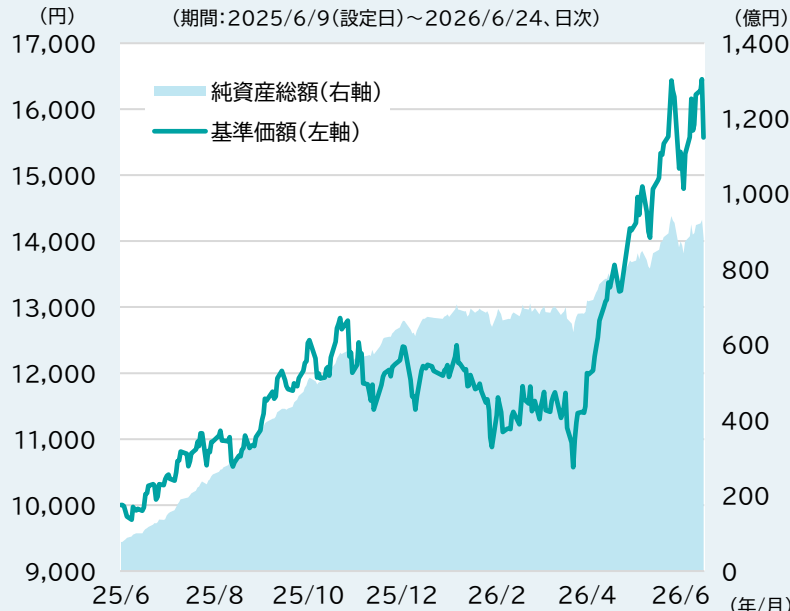
5月の基準価額は16.9%上昇しました。当月は次世代AIインフラと次世代AIイノベーター分野の双方がプラス寄与となりました。

特に、AI向けメモリ需要拡大やCPU需要の増加を背景とした半導体関連企業、ならびにAIデータセンター向けのネットワークやクラウドサービスを提供する企業がパフォーマンスを牽引しました。エージェントAIの普及に伴い、計算資源に対する需要が想定以上に拡大していることが評価されました。

一方で、年初から大きく上昇していた一部のAIインフラ関連銘柄では利益確定売りが見られ、運用成績の重しとなりました。ただし、これらの企業については事業環境や業績見通しに大きな変化はなく、短期的な調整と捉えています。

図表2 当ファンドの基準価額と純資産総額の推移

(期間:2025/6/9(設定日)~2026/6/24、日次)



※基準価額は1万口当たり、信託報酬控除後

NEXT GENERATION

投資先ファンドの設定来の運用状況

当ファンドが実質的に投資対象とする「BNPパリバ・次世代AI関連株式マザーファンド(以下、投資先ファンド)」の設定以降のリターン(2026年5月末時点、円ベース)は、AI市場の進展と成長を捉え、約+61.3%と良好な推移となっています。

リターンの内訳は、『次世代AIインフラ』の銘柄群によるリターンが約+116.4%と非常に好調でした。同銘柄群は投資先ファンドのリターンに約67.1%ポイント寄与しました。このうち「ハードウェア」分野(半導体およびその他AI関連ハードウェア)が特に好調で約+163.1%と、投資先ファンドのリターンに約56.0%ポイント寄与しました。また、「インフラ・ソフトウェア」のリターンも順調で約+50.8%となり、投資先ファンドのリターンに約11.1%ポイント寄与しました。一方、『次世代AIイノベーター』の銘柄群によるリターンは約-19.5%のマイナスとなり、投資先ファンドのリターンを約6.0%ポイント押し下げました。

投資カテゴリー*別リターンの違いの背景

次世代AIインフラの大幅上昇と次世代AIイノベーターの下落という大きな乖離をもたらした主因は、期間中の半導体セクター(次世代AIインフラに多く含まれる)とソフトウェアセクター(次世代AIイノベーターに多く含まれる)の極端なパフォーマンス格差でした。

設定から2026年5月末までの期間において、半導体指数は円ベースで約175%上昇した一方、IGVソフトウェア指数は5%程度の上昇にとどまっており、その差は約170%にも達しました。この大きな乖離は、AIを取り巻くファンダメンタルズと市場心理を反映しています。AIによる利益成長が顕在化している半導体・ハードウェア企業は恩恵を受けた一方、AIがソフトウェア業界のビジネスを侵食するリスクへの懸念から、ソフトウェア株指数は大きく劣後する形となりました。一方で、ソフトウェアセクター全体が振るわない厳しい環境下においても、当ファンドが保有するソフトウェア関連銘柄群のパフォーマンスはソフトウェアセクターを上回りました。市場ではAIによる既存ソフトウェア企業に対する影響への懸念から幅広い売りが見られましたが、当ファンドではAI活用による競争優位性や収益成長が期待できる企業を厳選しており、銘柄選択の効果は一定程度発揮されたと考えています。

*投資カテゴリーは、当ファンドの実質的な投資先ファンド「BNPパリバ・次世代AI関連株式マザーファンド」の運用を行うBNPパリバ・アセットマネジメント独自の分類であり、今後変更となる可能性があります。

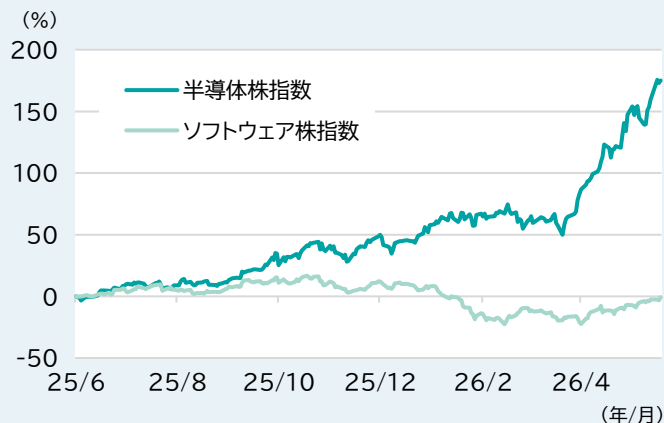
図表3 投資先ファンドの設定来リターンの内訳

	ポートフォリオ平均ウェイト(%)	投資カテゴリー別リターン(%)	寄与度(%ポイント)
次世代AIインフラ	65.2	116.4	67.1
ハードウェア	41.0	163.1	56.0
インフラ・ソフトウェア	24.2	50.8	11.1
次世代AIイノベーター	31.4	-19.5	-6.0
企業	13.9	-27.9	-3.8
消費	17.5	-13.0	-2.2
キャッシュ	3.4	5.1	0.1
合計	100.0	—	61.3

※「BNPパリバ・次世代AI関連株式マザーファンド」のリターン(円ベース)
 ※期間: 2025年6月10日(投資先ファンドの設定日)から2026年5月末
 ※数値は小数点第2位を四捨五入

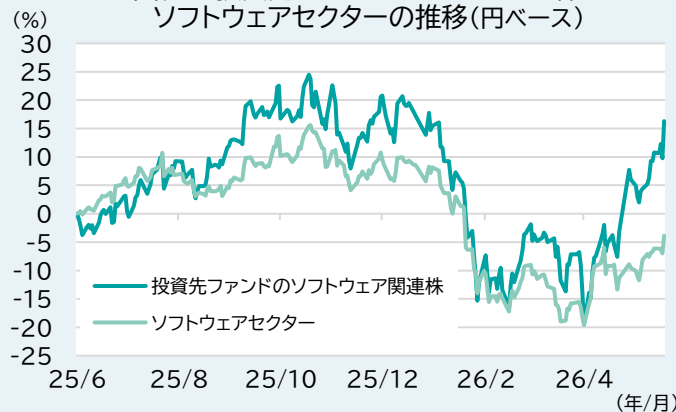
(出所) FactSetのデータを基にBNP Paribas Asset Management作成

図表4 半導体株指数とソフトウェア株指数の推移(円ベース)



※期間: 2025年6月10日(投資先ファンドの設定日)から2026年5月末、日次
 ※半導体株指数: フィラデルフィア半導体株指数、ソフトウェア株指数: IGVソフトウェア株指数

図表5 投資先ファンドのソフトウェア株とソフトウェアセクターの推移(円ベース)



※期間: 2025年6月10日(投資先ファンドの設定日)から2026年5月末、日次
 ※投資先ファンドのソフトウェア関連株: 投資先ファンドが保有するソフトウェア関連株
 ※ソフトウェアセクター: MSCI All Country World Indexのソフトウェアセクター
 (図表4、5出所) BNP Paribas Asset Management作成

※上記は例示のみを目的として記載しており、将来のパフォーマンスを保証するものではありません。

NEXT GENERATION

設定来における次世代AIの投資環境

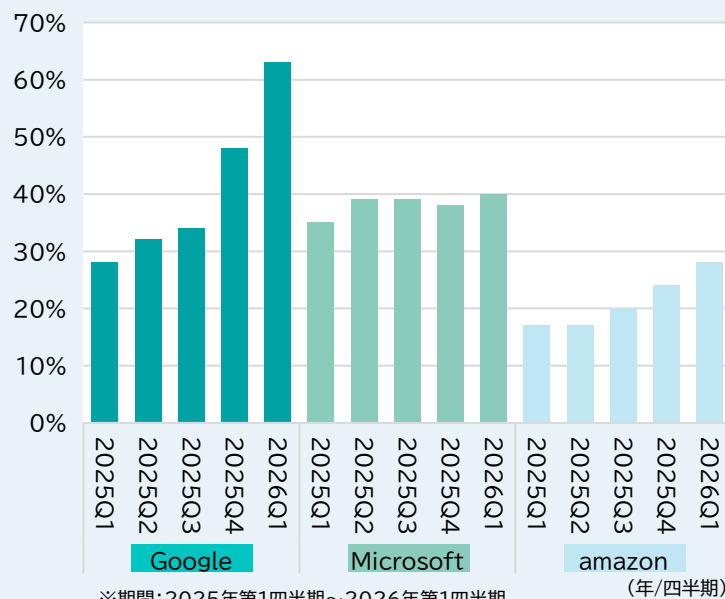
この1年間のAI関連市場ではAI技術の進化と利用拡大を背景に、AI需要が市場予想を大きく上回る状況が続きました。OpenAI (ChatGPT)、Google (Gemini)、Anthropic (Claude) などによる高性能な推論モデルの登場に加え、2026年に入ってからエージェントAIの実用化が進展し、企業における次世代AI活用への期待が一段と高まりました。こうした需要拡大を受けて、ハイパースケーラー各社はAI関連投資を大幅に拡大しました。AI向け設備投資の伸び率は当初予想を大きく上回り、半導体、メモリ、電力設備などAIインフラ関連企業の業績拡大を後押ししました。

一方、AIコーディング技術の急速な進歩を受け、市場では「AIによって既存ソフトウェア企業の競争環境が変化するのではないか」との懸念が高まり、業績が堅調な企業を含めて関連企業は幅広く調整する展開となりました。

企業によるAI活用やエージェントAIの導入はまだ初期段階にあることから、AIによる恩恵はこれから本格的に顕在化していくと考えられます。

図表6 ハイパースケーラー3社のクラウド売上成長率

(前年同期比)



※期間: 2025年第1四半期~2026年第1四半期

(年/四半期)

(出所)BNP Paribas Asset Management作成

※上記は、個別銘柄の推奨を目的として示したのではなく、当該銘柄の株価上昇および投資先ファンドへの組入れを保証するものではありません。

ポートフォリオの状況

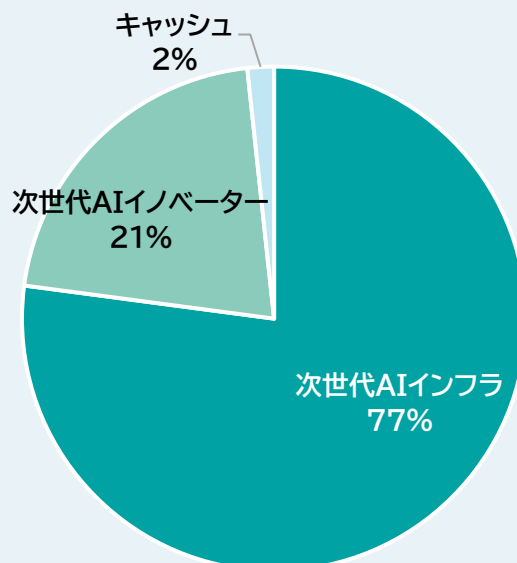
当ファンドでは、次世代AIインフラと次世代AIイノベーターの双方を投資対象とする運用方針を維持しながら、期間中の市場環境を踏まえ、ポートフォリオの最適化を進めました。

当期はAI需要の拡大を背景にAI市場のボトルネック解消に貢献するインフラ企業への投資を積極的に行った一方で、競争優位性や成長性の観点から相対的に魅力が低下した銘柄については組入比率を引き下げました。

また、イノベーター分野では、市場全体が大きく調整する中でもAI活用による成長が加速している企業への投資を拡大しました。当運用チームでは次世代AIの普及によって、恩恵を受ける企業とそうでない企業の選別が今後より重要になると考えています。

さらに、AIの活用領域がデジタル空間から現実世界に広がる中、フィジカルAI関連企業への投資も進めています。自動化やロボティクスなどの分野では徐々にではあるものの、AI実用化が進みつつあり、新たな成長機会として注目しています。

図表7 投資カテゴリーの構成比
(2026年5月末時点)



(出所)BNP Paribas Asset Management作成

NEXT GENERATION

今後の運用方針

当運用チームでは、次世代AIは社会や産業の在り方を大きく変える「汎用技術」として位置づけており、今後も長期的な成長機会が続くと考えています。

当ファンドは、今後数年間にわたるAI成長の恩恵を取り込むよう構築されています。そして、市場環境に合わせて、次世代AIインフラと次世代AIイノベーターの双方に柔軟に投資することで、今後も次世代AI市場の成長を幅広く取り込んでまいります。

次世代AI市場の発展にはインフラの進化は不可欠ですが、その価値を最終的に収益へと転換するのはイノベーター企業です。だからこそ私たちは、次世代AI革命の恩恵はインフラだけでなく、それにより収益化を実現する企業にも広がると考えており、両分野への投資を通じて中長期的な成長機会の獲得を目指します。

図表8 今後注目の成長ドライバー

1		次世代AIインフラにおける継続的なイノベーション
2		エージェントAIの普及加速
3		次世代AIイノベーター企業の収益化
4		フィジカルAIの進化
5		新たなAI企業の上場

(出所)BNP Paribas Asset Management作成

■ 今後の成長ドライバー

次世代AIインフラにおける継続的なイノベーション

AI需要の拡大に伴い次世代AIインフラへの投資は引き続き拡大すると考えています。特に、AIの普及を支えるボトルネック領域では継続的な技術革新が求められており、こうした企業が今後も成長をけん引すると期待しています。

エージェントAIの普及加速

次世代AIは情報を生成する段階から、自律的に業務を遂行する「エージェントAI」の段階へ進化しつつあります。企業における活用が本格化することで、AI利用の裾野が広がり、新たな需要創出に繋がる可能性があります。

次世代AIイノベーター企業の収益化

AIによる経済価値はインフラだけでなく、実際にAIを活用したサービスや業務変革を実現する企業によって創出されます。今後はAIを競争優位につなげる企業の収益化が進み、新たな成長機会が生まれると考えています。

フィジカルAIの進化

AI活用は現実世界へと広がりつつあります。フィジカルAIの進展は、次世代AI市場の新たな成長ドライバーになると思われます。

新たなAI企業の上場

未上場市場では、AI関連のイノベーションが活発に進んでいます。今後は高い成長が期待されるAI企業の上場が相次ぐことで、投資機会の拡大に繋がると考えています。

NEXT GENERATION

銘柄紹介

SKハイニックス (韓国、情報技術)

SKハイニックスは、AIインフラ投資の急拡大による恩恵を大きく受けました。同社は、AIプロセッサと組み合わせて使用される重要部品であるHBM(高帯域幅メモリ)の主要サプライヤーです。AI向け需要が業界全体の供給能力を上回る状況が続く中、出荷数量の増加と価格上昇の双方から恩恵を受けています。

- 運用チームの着目ポイント
 - ・ HBM分野における技術的優位性
 - ・ 主要AI顧客との強固な関係
 - ・ エージェントAIの普及によるメモリ需要の増加
 - ・ AIインフラ投資の継続的な拡大

図表9 SKハイニックスの株価推移

(期間:2024/12/30~2026/6/24、日次)



ビアビ・ソリューションズ (米国、情報技術)

ビアビ・ソリューションズは、AIデータセンター向けネットワークの大規模化・高速化・複雑化を背景に好調なパフォーマンスを示しました。同社は、データセンターネットワークの性能を検証し、最適化するために必要な試験・監視ソリューションを提供しており、ハイパースケーラー各社による次世代光通信インフラの導入拡大によって需要が押し上げられています。

- 運用チームの着目ポイント
 - ・ ネットワーク速度のさらなる高速化
 - ・ 光通信アーキテクチャの高度化
 - ・ AIインフラ拡大に伴う試験・検証需要の増加

図表10 ビアビ・ソリューションズの株価推移

(期間:2024/12/31~2026/6/24、日次)



アステラ・ラブズ (米国、情報技術)

アステラ・ラブズは、AIインフラの急速な拡大とエージェントAIの普及によって、高性能かつ高効率なコンピューティングシステムへの需要が高まる中で株価は大きく上昇しました。同社は、AIシステム内でデータを効率的に接続・転送するための接続ソリューションを提供しており、ハイパースケーラー各社のAI投資拡大を背景に製品採用が進んでいます。

- 運用チームの着目ポイント
 - ・ 次世代AIインフラ投資の継続
 - ・ AIEコシステムにおける同社の重要性の高まり
 - ・ 次世代AIシステム向け高速データ接続需要の拡大

図表11 アステラ・ラブズの株価推移

(期間:2024/12/31~2026/6/24、日次)



※上記は、個別銘柄の推奨を目的として示したのではなく、当該銘柄の株価上昇および投資先ファンドへの組入れを保証するものではありません。

(図表9-11出所)Bloombergのデータを基にSBI岡三アセットマネジメント作成

販売会社一覧 2026年7月1日現在



受益権の募集の取扱い、投資信託説明書(交付目論見書)、投資信託説明書(請求目論見書)及び運用報告書の交付の取扱い、解約請求の受付、買取請求の受付・実行、収益分配金、償還金及び解約金の支払事務等を行います。
 なお、販売会社には取次販売会社が含まれる場合があります。

商号	登録番号	加入協会			
		日本証券業協会	一般社団法人資産運用業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
(金融商品取引業者)					
岡三証券株式会社	関東財務局長(金商)第53号	○	○	○	○
岡三にいがた証券株式会社	関東財務局長(金商)第169号	○			
株式会社証券ジャパン	関東財務局長(金商)第170号	○	○		
野畑証券株式会社	東海財務局長(金商)第18号	○			○

委託会社
お問合わせ先

電話番号
03-3516-1300(営業日の9:00~17:00)

ホームページ
<https://www.sbiokasan-am.co.jp>

次世代AI株式戦略ファンドに関する留意事項



投資リスク

基準価額の変動要因

投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。投資信託は預貯金と異なります。投資信託財産に生じた利益及び損失は、すべて投資者の皆さまに帰属します。

ファンドは、国内外の株式等値動きのある有価証券等に投資しますので、組入れた有価証券等の価格の下落等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資しますので、為替相場の変動により損失を被ることがあります。

ファンドの主な基準価額の変動要因としては、「株価変動リスク」、「為替変動リスク」、「特定の業種・テーマへの集中投資に係るリスク」、「信用リスク」、「流動性リスク」があります。その他の変動要因は、「カントリーリスク」があります。

※「基準価額の変動要因」は、上記のリスクに限定されるものではありません。

留意事項

- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリングオフ）の適用はありません。
- 投資信託は預金商品や保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関が取り扱う投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
- ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要性が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金申込の受付が中止となる可能性、換金代金の支払が遅延する可能性があります。
- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があるため、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。また、投資者の購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり率が小さかった場合も同様です。
- 投資対象とする投資信託証券にかかる購入・換金申込の受付の中止および取消、取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金申込の受付を中止することや、すでに受付けた購入・換金申込の受付を取消することがあります。

お客様にご負担いただく費用

- 購入時手数料：購入金額（購入価額×購入口数）×上限3.3%（税抜3.0%）
 - 換金手数料：ありません。
 - 信託財産留保額：ありません。
 - 運用管理費用（信託報酬）：純資産総額×年率1.2925%（税抜1.175%）
 - 運用管理費用（信託報酬）の実質的な負担：純資産総額×年率1.826%（税抜1.66%）程度
※実質的な負担とは、ファンドが投資対象とする投資信託証券の信託報酬を含めた報酬です。なお、実質的な運用管理費用（信託報酬）は目安であり、投資信託証券の実際の組入比率により変動します。
 - その他費用・手数料：監査費用〔純資産総額×年率0.0132%（税抜0.012%）〕
有価証券等の売買に係る売買委託手数料、投資信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用等を投資信託財産でご負担いただきます。また、投資対象とする投資信託証券に係る前記の費用等、海外における資産の保管等に要する費用等を間接的にご負担いただきます。（監査費用を除くその他費用・手数料は、運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことはできません。）
- お客様にご負担いただく費用につきましては、運用状況等により変動する費用があることから、事前に合計金額もしくはその上限額またはこれらの計算方法を示すことはできません。
- 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「手続・手数料等」をご参照ください。

<本資料で使用しているインデックス>

- MSCI ACWI IndexはMSCI Inc.が算出している指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。またMSCI Inc.は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。



商号等：SBI岡三アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第370号
加入協会：一般社団法人資産運用業協会

<本資料に関してご留意いただきたい事項>

■本資料は、当ファンドに関する情報提供を目的としてSBI岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている運用実績は過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮しておりません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成日時時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その情報の正確性・完全性を保証するものではありません。■購入の申込みには、投資信託説明書（交付目論見書）をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。